

Title	英国に於ける小農場運動の発展と戦後の土地政策(一)
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.2 (1917. 2) ,p.225(53)- 238(66)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170201-0053

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

るものと比較すれば其相異驚く可きものあるや亦疑を容れざる也。

今日の經濟組織に於て貨物の多くは世界共通なり故に我國に於てのみ法外に高價なりと云ふの事實あることなし又我國に於てのみ特に之を低廉ならしめんとするも所誼不可能なるや前述せる所の如し。されば我國に於て物價の騰貴と國民の生活とを調和せしむるの途は唯人間勤勞の代價を昂騰せしむるの外なきこと自ら明かなる可し。而して勤勞の代價たるや根蒂に於て需要供給の一般原則に支配せらるゝは云ふまでも無き所なれども然も之と同時に舊慣打破輿論特殊階級の團結的要求等は亦多大の勢力と影響とを其間に與へ得るものなることを疑はず而して政府當局者の如きも所謂金融調節若くは物價騰貴抑制策の如きに没頭して其失敗を繰返さんよりは寧ろ人間の勤勞を騰貴せしめ各人の收入を増加せしむるの策を講ずること肝要なる可し例へば政府が下級使用人の待遇を改善し其給料を増加するは之れ間接に一般勞働者の勞銀昂騰を促す一因たるに至る可きなり今日の政府當局者の如く物價騰貴をのみ憂へて人價の騰貴せざるを憂へざるは我國國民經濟を正當に理解せざるものと云ふ可きなり矣。

英國に於ける小農場運動の發展と

戦後の土地政策 (一)

三 邊 金 藏

英國に於ける小農場運動は一面より之を言へば必しも新規を以て目す可きものにあらず。蓋し十八世紀の後半、アッサヤングの時代に於て當時益々増加する大農場に對して小農場の維持若くは挽回を講せる運動の既に熾盛を極めしものあり、而して其後ヤングの議論實際に勝を制して大農場の利益一般に承認せられたる時代に於ても此運動は未だ全く終熄することなくして以て十九世紀の半ばに及び穀物條令の廢止に引續きて商工業頻りに殷盛を極め都市に集中する過剩人口を吸収し盡すものあるに至りて初めて鎮靜に歸したるものに外ならざればなり。然れども更らに他方面より之を見れば英國に於ける近時の小農場運動

は幾多の點に於て舊時の夫とは全く異なる新面目を具有すと謂ざる可からざるなり。蓋し近時に於ける英國小農場運動をとりて、之を舊時の其と比較するとき、は兩者の間に少くとも左の如き重大なる相違の存するものあるを見ればなり。

第一、舊時の小農場運動は經濟上の大勢に逆行せるものなるに反し、近時の小農場運動は經濟上の大勢と順行するものなること。

第二、舊時の小農場運動は主として博愛家の支持に俟てるものなるに反し、近後の小農場運動は労働者自身の政治的權力背後より之を支持し促進しつゝあること。

第三、舊時の小農場運動は主として自作農の維持若くは増加を目的とせるものなるに反し、近時の小農場運動は必ずしも自作農の振興を目的とせず、寧ろ子作農の維持増加を目的とするものなること。

就中第一の相違は新舊兩小農場運動の運命を一は死に、一は生に導く決定的要因たるが故に、今煩を厭ずして此間に於ける事情を略述せんに、抑も十八世紀の後半期に於て、英國農業界に千古未曾有の推移を來たさしめたる根本の原因は、當時

同國に於ける工業漸く勃興し來り專業的に之に従ふ者の數次第に増加せると、一般人口數多大に増加せるとに職由するものとす。即ち是等二個の事情は互に相俟ちて農産物主として穀物に對する需用を増大し、農産物に對する需用の増加は總て農産物の代價騰貴を促進し、農産物の代價騰貴は、農産物を市場に輸し得る者換言すればヤングの所謂 net produce を作出し得る者に與ふるに絶好なる收利の機會を以てしたり。然るに農産物を市場に輸し得る者は言ふまでもなく大農場主にして、自耕自食の状態に在りし小農場主は概ね之に與かるを得ざること、昔も今と異るところなき其一方に於て、農業の收利力増加は農場に對する需用を喚起し、隨つて地價地代の騰貴を促進したるが故に、小農場を擁せし者は日を追ふて益々不利なる地位に陥らざるを得ざりき。於是乎、小子作農は地代騰貴の爲めに惱まれて漸く先づ潰る去り、郷士ゴウシとして誇れる小自作農は地價騰貴の爲めに阻まれ、進みて耕地の擴大を圖る能はず、然かも退て舊態を維持せんには、當時の圍垣法インクローチング、小農場主にとりては費用のみ徒らに大にして實益は却つて之に伴はざるものありしが爲め、其負擔に堪ゆ可からずと云ふ進退兩難の間に壓迫せられて次いで仆

れ、而して辛うじて此間より脱せるものは奈翁戦役に生せる農業再整定の際に、自ら保つ能はずして又た漸く滅亡せり。然れば當時の状況を一言にして盡せばゴ
 オルドスミスが自ら當時の状況を咏じて附せる "Deserted Village" なる一旬程良
 きはなしと謂ふ可きにして、而かも亦た此事實こそ當時の志士仁人を驅つて小農
 場の維持恢復に奔走せしめたる原因なれと謂ふ可き次第なれども、併し斯くの如
 き勢の下に於て斯くの如き運動を試むるは、謂はゞ狂瀾を既倒に廻さんとするも
 のに外ならずして、人力の到底能くし得る所にあらざりしなり。乃ち大勢は終に
 其赴く所に赴き、而して當初より小農場運動の不可能にして、而かも亦た不智なる
 を喝破せるヤングは、其盛名を専らにして以て今日に及ぶに至れり。

然かれども事情は推移し、歴史は轉變す。十八世紀の後半期以後特に大農場の
 發達に幸せる英國經濟上の風潮は、十九世紀の四分の三期に入るに至りて突如と
 して大頓挫を來せり。其原因は大洋可航汽船が、此時期に至りて長足の進歩をな
 し、短日月の間に低廉なる運賃もて北米及び露西亞の處女地に産する穀類を大量
 に輸送し得るに至りたる事實に職由するものにして、此新たななる競争者の壓迫を

受けたるは、勿論英國のみに限らざれども他の歐洲諸國は何れも關稅の増壁を高
 ふして此新來の競争者の前に備へたるが故に、其銳鋒を緩和するを得て以て自國
 農業の衰退を防ぐを得たれども、英國にありては曩きに既に穀物關稅に依りて、幾
 多の苦き經驗を嘗めたるの實あり、而して他方に於ては商工業に従事する者大多
 數を占め穀物關稅に依りて利益を享くる者は僅かに全人口中の一割三分に過ぎ
 ざるの狀態にありしが故に、斯る手段に出づる能はずして、終に形勢の推移を見る
 に至れるものなり。

然らば新競争國の出現は、如何なる變化を英國農業の上に齎らしたるや。生産
 費極めて低廉なる是等農業國の穀類を、自由に自國に誘致する第一の結果は、言ふ
 までもなく、穀價の大下落にして、左の一表は略ぼ之を明かにす。

小麦一クオウタアの平均價格

一八六一—一八八〇	五二 ^片	一八九一—一九〇〇	二八 ^片 三 ^片
一八八一—一八九〇	三五 ^片 九 ^片	一九〇一—一九一〇	二九 ^片 一 ^片
一八六一—一八八〇	一〇〇 ^片	一八九一—一九〇〇	五五四
一八八一—一八九〇	七〇 ^片	一九〇一—一九一〇	五八一

指數に換算して之を示せば即ち左の如し。

大麥一クオウタアの價格

一八六一—一八八〇	三五 ^五 —	一八九一—一九〇〇	二五 ^五 —
一八八一—一八九〇	二九 ^一 —	一九〇一—一九一〇	二四 ^七 —

指數に換算すれば

一八六一—一八八〇	一〇〇 ^一 —	一八九一—一九〇〇	六九 ^六 —
一八八一—一八九〇	八〇 ^七 —	一九〇一—一九一〇	六八 ^一 —

燕麥一クオウタアの價格

一八六一—一八八〇	二四 ^五 —	一八九一—一九〇〇	一七 ^六 —
一八八一—一八九〇	一九 ^五 —	一九〇一—一九一〇	一八 ^一 —

指數に換算して

一八六一—一八八〇	一〇〇 ^〇 —	一八九一—一九〇〇	七一 ^七 —
一八八一—一八九〇	七九 ^五 —	一九〇一—一九一〇	七四 ^〇 —

却説穀價の下落右の如くなるに於ては、英國の農業は損益の關係上自から其趨勢を一變せざるを得ざる道理にして、價格の低落最も大なりし小麥の作付面積は左表に其大體を見得るが如く逐年減少せり。

一八八八 ^年	二、五六四、二三七 ^{エーカー}	一九〇一 ^年	一、七〇〇、九六五
一八九一 ^年	二、三〇七、二七七	一九〇七 ^年	一、六二六、八六六
一八八八 ^年	二、〇八五、五六一 ^{エーカー}	一九〇一 ^年	一、九七二、四四八
一八九一 ^年	二、一一二、七九六	一九〇七 ^年	一、七一四、九二七

即ち最近三十年間に約三割六分五厘の減少を見たる計算なるが、小麥に次で價格の大低落を見たる大麥の作付面積も亦た同じ期間に於て左の如き減少をなせり。

一八八八 ^年	二、八八二、二五二 ^{エーカー}	一九〇一 ^年	二、九九六、九〇二
一八九一 ^年	二、八九九、二二九	一九〇七 ^年	三、一四三、一六八

(注意) 右作付面積の統計は所謂大貌列頭に於けるものに限り、愛蘭土は除外せり)

是れ即ち従來小麥大麥等を栽培せる土地が價格の低落比較的に少く、従つて收利力猶ほ豊かなる燕麥の栽培に轉用せられたることを語るものにして、同時に又英國の農業が新らしき事情に適應し行く徑路を指示するものたるなり。

然れども土地轉用の最も盛んに行はれたる方面は牧草地の方面にして、實に左の如き増加をなせりと謂ふ。

牧草地の面積

一八七六—一八八〇年	一一、〇五〇、三二二
一九〇六—一九一〇年	一三、八七二、二六五

大洋可航汽船の發達に伴れて、國際的競争の壓迫を受くるに至りたるは、單に穀作のみならずして、飼畜業の方面にも及びたる可きに、牧草地の増大斯くの如きものあるは抑も何故なりやと云ふに、其理由の第一は輸入肉類は其品質概ね優等ならずして、氣候四時温和にして良好なる牧草地を得るに苦まざる英國所産の肉類と競争するを得ざる事實に存すと謂ふを得可し。今牛肉及羊肉を一、二、三の三等級に分ち、一八七六年乃至一一八〇年の平均價格と一九〇六年乃至一九一〇年の平均價格とを比較するに、毎八ポンドに就き

牛肉	一八七六—一八八〇年	一九〇六—一九一〇年
一等品	五、二〇片	四、一〇片

羊肉	一八七六—一八八〇年	一九〇六—一九一〇年
一等品	六、一〇片	五、一〇片
二等品	六、四	五、一
三等品	五、五	三、一〇

にして、牛肉の下落したる割合は

一等品	一割七分強
二等品	二割六分六厘
三等品	三割七分七厘

羊肉の下落したる割合は

一等品	一割四分六厘
二等品	二割一分強
三等品	二割九分二厘

なるを見る。即ち等級の下るに従ひて競争の壓迫加重せるの證にして、英國の如き自然的要件優等肉類の産出に必適せる所に於て、此方面に於ける經營を集約的ならしめて以て、製作に於て利用の途を失せる土地を活用するの計畫に出でたる

は、寧ろ當然の處置たりと稱す可きものなり。

然れども斯の如く専ら優等肉類の産出を主眼として事に従はんには、先づ其市場の存在を前提とすること勿論なるが、穀價の大下落は恰かも此點に於て十分な保證を與ふるの用を爲せり。蓋し穀價の大下落は一般公衆の家計に大なる餘裕を與へ、斯くて從來肉、牛乳、乾酪等を消費すること稀少なりし勞働者の家庭にも是を消費するの能力を附與し、從來既に是等の食料品を消費し來りし家庭には更らに優良なるものを消費するの餘地を供するに至りたればなり。即ち前記の事情と合して牧草地の増加を誘致せしめたる原因の一をなす所以にして、此第二の原因は吾人の特に此處に強調せんと欲する處たるなり。蓋し單純に穀價の大下落穀作地を撥減せしめて牧草地の増加を招けりと謂ふが如く説くと、穀價の大下落公衆の購買能力を向上せしめ、肉、牛乳其他の消費を増加し、此點より牧草地増加の勢を促進したりと説くとは、言の同じからざるは勿論、同一事情に對する批判に大なる徑庭を生せしむるものなればなり。

次に、果實栽培、市場園藝の發達も亦た此期間に於ける英國農業の新傾向を語るものにして、左の數字は略ぼ其趨勢を示すに足らん乎。

果實栽培

一八七八 ^年	一六五、〇〇〇 ^{エーカー} (概數)	一九〇〇	二三二、二二九 ^{エーカー}
一八九〇	二〇二、三〇五	一九一〇	二九三、八一九

市場園藝

一八七八 ^年	三七〇、〇〇〇 ^{エーカー} (概數)	一九一〇	九六、六九六 ^{エーカー}
一八九〇	七三三、三五五	一九一〇	二〇〇、〇〇〇 ^{エーカー} (概數)

英國に於ける果實、蔬菜の市場は、近接歐洲大陸諸國よりの競争を受くるは勿論、遠くは加奈陀、米國等よりの競争をも受くる状態なるに、同國に於ける斯業が近年斯く長足の進歩をなすに至りたるは何故なりや。其理由の一半は前に述べたると同じ原因に基き、一般家庭の消費能力に餘裕を見るに至りたる其事實に存するものにして、他の一半は英國に於ける果實、蔬菜の收穫期が同國に於ける氣候の關係上他國に於ける其と遅速の相違ある其事情に在りて存するものなり。換言すれば公衆一般の消費能力に餘裕を見るに至りたる結果は、一般に果實、蔬菜に對す

る需用を増加せしめたる其一方に於て、收穫期の相違は或程度まで外國の競争を緩和し、此處に斯業發達の餘地を確保せしめたるものに外ならざるなり。

十九世紀末に襲來せる農業恐慌の影響を受けて、經營法に變遷を見たる、其大要は、凡そ右の如くなりとして、此經營法の變遷は如何なる變化を經營面積の大小の上に齎らせるや。十八世紀の後半期に於て、ヤングの一派が大農場の利益を主張したるは、穀作農を前提として立論したるが爲めにして、實際の結果が大農場の勝利となりて了りたるも亦た當時の經營法が主として穀作に在りしに原因するものなり。然るに今や穀作農は新競争國出現の爲めに壓せれて、漸次に衰退し、唯生産條件極めて優秀なる土地に於てのみ存続するの狀況となり、此處に大農場を利益なりとする前提は崩れ去りたる其一方に於て穀作に代りて新たに勢力を占むるに至れる牧畜業は、優等肉類の産出を以て自己存立の要件となす關係より資本勞力の集約的使用を必要とし、従つて大農場よりも中農場を撰むの傾向ある是等の原因は、相重なりて大農場の漸減を招くに至れり。左の一表は即ち之を語るものにして、農場數の減少率よりも面積の減少率の方更らに高きは益其證左たるものなり。

大農場(三百エーカー以上のもの)

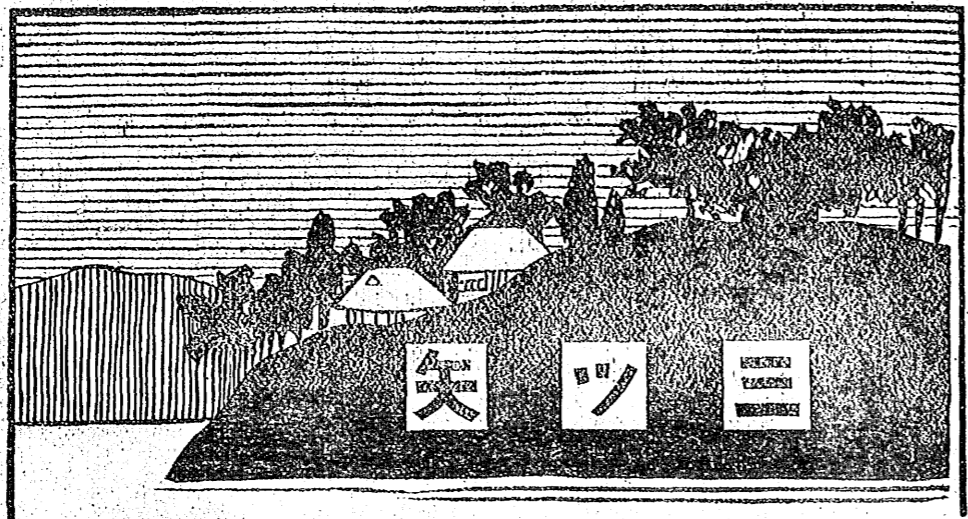
年次	農場數	面積(エーカー)
一八八五	一六、一四八	七七六一、六五四
一九〇八	一四、六五一	六八二、四九七
増減	一四九七(減)	九四九、一五七(減)
増減率	九、三%(減)	一二、二%(減)

之に反して中農場(五十エーカー以上三百エーカー未満)は左表に見るが如く漸次増加せり。

中農場

年次	農場數	面積(エーカー)
一八八五	一〇四、〇七三	一三、五七一、三三八
一九〇八	一〇九、八三〇	一四、〇九四、九九一
増減	五、七五七(増)	五二三、六五三(増)
増減率	五、五%(増)	三、九%(増)

即ち、一般に經營を集約的になす必要より來る結果と謂ふ可くして、農場數の増加率よりも面積の増加率低きは、同じ中農場の中に就ても、中の大より中の中、多數



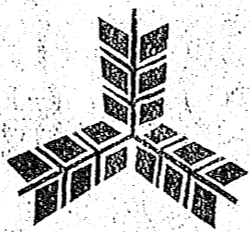
第十一卷 (二三八) 論 説 英國に於ける小農場運動の發展と戦後の土地政策 第二號 六六

を占めんとする傾向を指示するものと解して差支なかる可しと信ず。

然らば次ぎに小農場は果して如何なる推移變遷をなせるや。以上大、中、兩農場の其と同じく、英蘭州全體に亘りてとれる統計に就て之を見れば、其數字は左の如くにして、其面積は増加したるに、其個數は却つて減少せるを見る。

年次	農場數	面積(エーカー)
一八八五	一七〇、四三一	三二六、二〇三
一九〇八	一六五、二六五	三四〇、六二五
増減	五、一六六(減)	一四四、二二三(増)
増減率	三%(減)	四四%(増)

即ち小農場の小なるもの廢れて、大なるもの興れるの證なるが、其理由は新事情の下に於て其存立を維持せんが爲めには、概して其經營法に於て資本的集約を行ふの必要あり、而して小農場の小なるものは、恰かも此點に於て常に其弱點を突かるゝものなれば、資力足らずして此處に仆れ、小農場中にて資力比較的裕かなる小の大代りて興れるものなる可し。(未完)



サイダー
平野水
紀念飲料
コローナ

三ツ矢の三大特色

- 一 御料品製造の特別なる恩命を拜受せる事
 - 一 天然炭酸瓦斯の純良にして豊富なる天然炭酸瓦斯噴出する事
 - 一 胃腸、糖尿、腎臟、氣管、婦人病に特效ある鑛泉にて壘詰する事
- 以上の三大特色は他の清涼飲料水にはありません

三ツ矢サイダー製造元
三ツ矢平野水
帝國鑛泉株式會社